

2021年度 2回目募集説明会 Q&A

融合フロンティアフェローシップおよび融合フロンティア次世代リサーチャー

質問及び回答	融合 フロンティア フェローシップ	次世代 リサーチャー
Q1001 説明会のスライドなどの資料/録音の公開はありますか。	○	○
A 説明会の動画を博士機構のHPにて公開いたします。		
Q1002 次世代リサーチャーには、融合フロンティアフェローシップのように、研究科・専攻ごとに申請可能分野の制限はあるのか。	○	○
A 次世代リサーチャーに関しては、研究科・専攻による応募分野の制限はありません。自分の研究内容が一番適している分野に申請することになります。		
Q1003 融合フロンティアフェローシップの書類選考通過率はどのぐらいですか。	○	
A 第1回募集における採択者数が既に公開されています。通過率は、各分野により応募者数に幅があるため、それに伴い分野ごとに異なります。		
Q1004 次世代リサーチャーに関しての応募条件として、社会人経験、年齢についての制限を教えてください。	○	○
A 年齢制限はありません。社会人経験については、収入制限があります。収入を証明する書類は、申請の段階で全員に提出していただくことは考えていません。申請書に、収入状況を自己申告する項目を設けています。また、後日、収入の状況については確認することも考えています。		
Q1005 融合フロンティアフェローシップ採択者の中で、日本学術振興会の特別研究員に採択され欠員になった分については、また募集があるのでしょうか。	○	
A 今回の第2回募集では、応募者の中から合格者と補欠者を選ぶ予定です。特別研究員合格者の欠員は、補欠の上位者から埋めるといったことを考えています。特別研究員の採択者が多く補欠者数より多い場合は、再度募集するのか、既に過去に申請された方の中から採択するのかは、まだ決まっていません。その件については、今後の検討課題とさせていただきます。		
Q1006 次世代リサーチャーについて、QEをもう少し詳しく教えてください。	○	○
A QEについては、各分野の分科会が対応します。そこには分科会長、副分科会長、また、この次世代事業の運営チームとの面接を進めていきますが、一番は、融合研究や海外における共同研究をするといった計画がしっかり立てられているか、また、語学については英語の力をつけていただくため、少なくともDC1の終わりにはIELTS 5.5相当は身につけていただきたい。ドクターコースに関しても、同様に研究の進捗を確認し、語学に関しては、IELTS6.0相当を求めていくことを考えています。留学生に関しても、日本語をしっかりマスターしていただきます。この他に、融合フロンティアフェローシップにもあった、「別表1」のフェローポイント一定以上のポイントを獲得するといったことも求めていきます。		
Q1007 TAやRAを行うことは可能ですか。	○	○
A それぞれに事業が求めるプログラムの受講に支障がない限り可能です。ただし、卓越大学院で奨励金をもらっている方は、重複することはできません。		
Q1008 来年度のリサーチャーは春に募集がありますか。来年以降も夏の募集ですか。	○	○
A 来年度以降の件については、文部科学省、あるいはJSTの方からアナウンスは受けていませんが、続ける予定であるということは言われています。ただし、具体的な人数などについては、年度末にならないと分かりませんので、詳細は決まっていません。また、夏の募集ということはほぼありません。融合フロンティアフェローシップと歩調を合わせて募集できればと考えています。		

Q1009 3年制の博士後期課程で、D3でリサーチャーに採用された場合、半年間支援されるということでしょうか？		
<p>A 博士課程最終年度で残り半年だが申請しても良いか、ということに関しては、申請して構いません。支援したいと思っています。</p> <p>半年間で、本事業が求める融合研究・共同研究はできるのか、といった件については、なかなか難しいだろうと承知しています。まずは博士論文を書くことに専念してください。博士論文を提出後に、少し時間があるかと思しますので、本事業に関わるようなことをやっていただきたいと思っています。具体的には、D3の学生が提出された博士論文の研究を、専門外の方でも分かるよう動画等を作成していただくことを考えています。また、海外の方が英語で見られるような広報用のビデオを作ることもご協力いただきたい。</p>		○
Q1010 推薦者の説明に指導教員等とありましたが、指導教員以外の方に推薦者を依頼することは可能でしょうか。可能な場合、依頼する推薦者に何らかの制限はありますか。		
<p>A リサーチャーに関しては、基本的にはドクターコースで指導いただいている教員と計画を立てていただきたい。ただし、フェローシップの場合、M2の学生や学外からの申請者で受け入れの教員が決まっていない方は、指導教員の代わりになるような方をお願いをするということでは構いません。また、何らかの事情で指導教員に頼めないという方は個別にご相談ください。</p>	○	○
Q1011 融合フロンティアリサーチャー制度については、民間の奨学金受給をしている場合でも応募は可能でしょうか。		
<p>A 民間の奨学金を受給している方は、民間の奨学金側に何らかの制約がないかどうかを確認してください。民間の奨学金側に専念義務というものが課せられていると、こちらに応募できない可能性がありますので、当該奨学金の事務局等に確認してください。</p>		○
Q1012 実際、支給開始時期はいつになりますか？		
<p>A 支援対象は、10月からとなります。</p> <p>融合フロンティアリサーチャーの支援金の支給は、12月に10月からの3か月分をまとめてお支払する可能性があります。</p>	○	○
<p>Q1013 現在のフェローシップ採択者の中で学振に採択され、空いた枠に補欠として不合格だった者を合格させる、というお話でしたが、この補欠というのは、フェローシップの第1回募集での不合格者も含まれますでしょうか。</p> <p>第2回募集への申請も必須となるのでしょうか。</p>		○
<p>A 今回の第2回募集で補欠を決定するため、再度応募していただき、もう一度判断を仰いでいただくこととなります。ただし、第2回募集の申請分野は2つになっていますので、指導教員にご相談ください。</p>		
Q1014 融合フロンティアフェローシップについて、かなり分野間で採択率に開きがあります。分野間の開きについてどのようにお考えでしょうか。		
<p>A 融合フロンティアフェローシップの人数は本事業が文部科学省により採択された時点で決まっており、変更することができません。申請できる専攻の博士課程の学生人数をベースに決定しています。次世代リサーチャー事業においても、関連する分野があると思いますので、そちらの方もご検討してください。</p>	○	○
Q1015 日本学生支援機構（JASSO）からの奨学金を受けることは可能か		
<p>A 可能です。</p>	○	○